

井ルケ彗星の寫眞

本年に入つて第三番目の彗星は、ポーランド國クラカウ大學天文臺のキクル氏が、去る三月二十一日に「うを」座で發見したもので、近日點の距離が太陽から僅か七千萬キロ（1700萬里）であつた爲、光輝は可なり大きく、三月末には五等以上にもなつた。長さ二度ばかりの尾も引いてゐた。其の後は「アンドロメダ」星座に移



つて曉の空に見えるやうになつたが、未だ當分の間は見える筈：

此の寫眞は、去る四月 19 日午前 3 時 12 分から同 34 分までの間に、花山天文臺で中村要氏が、口径 16 センチの反射望遠鏡により撮影したものである。此の時、太陽は、寫眞の右下の方にあるので、彗星の尾は左上の方へかすかに延びてゐるが、此の寫眞版には殆んど現はれてゐないのが遺憾である。

彗星の附近に短い白線が斜めに澤山出てゐるのは、撮影中彗星の運動を追跡したため、附近の恒星の像がずれたやうに現はれてゐるのである。